

第20回技能競技大会

優勝選手に聞く

福岡県整振チーム
谷口選手・常岡選手



平成27年10月10日、東京ビッグサイドで開催された第20回全日本自動車整備技能競技大会で、全国制覇を成し遂げた福岡県自動車整備振興会チームの谷口修平選手、常岡兼次選手を訪ね、当時の心境やその後をお聞きしたのでお知らせする。

福岡県整振チーム谷口選手・常岡選手

・谷口修平氏プロフィール

年齢：33歳

整備士資格：二級ガソリン自動車、二級ジーゼル

実務経験年数：11年

所属事業所名：（有）藤壺自動車工業（代表者：藤壺 巖）

同社概要

同社は1931年、昭和6年に福岡市博多区で創業したが、昭和20年の福岡大空襲で被災するも復興。昭和30年には祖父兄弟の兄であり、創業者である藤壺勇氏が上京し、現在のマフラーメーカーである藤壺技研工業を創業。弟の藤壺勝氏が福岡の工場を引き継ぎ、今日に至る。

自動車の販売、買取（Ju福岡）、钣金、塗装、古い車の再生（レストア業務）を主な業務とし、今年で創業85周年をむかえる。

整備士になろうとした動機

旧車が好きで、小さい頃に動かなくなった車をレストアする仕事があることをテレビで知り整備士になろうと決意。

普段の様子（代表者談）

自動車整備士の他に危険物、電気工事士、ボイラーなど10個くらい資格を持っており、何事も勉強熱心で頭の回転が早く、とても優秀な整備士です。

昭和の古い車から平成の新しい車まで幅広く整備をすることができ、お客様からの信頼度も高く現在は整備士であり、アドバイザーであり、素晴らしい職人でもあります。



谷口氏が勤めている藤壺自動車工業

・常岡兼次氏プロフィール

年齢：27歳

整備士資格：二級ガソリン自動車

実務経験年数：8年

所属事業場：西鉄エム・テック（株）福岡工場
（工場長：小屋松 敏浩）

同社概要

同社は昭和30年に創業し、大型車、普通車、特殊車両等の車検整備、新車・中古車販売、バスのメンテナンス、生命保険、損害保険の代理店事業、交通ITシステムの開発機器の販売を展開しており、「クルマ」に関する全てをサポートする企業として、安全安心を追求するとともに「お客様に選ばれる会社」を目指している。

整備士になろうとした動機

小さい頃から物づくり等が好きで、中学生の頃にバイクに憧れ自動車関係の仕事に興味を持ち整備士になろうと決意。

普段の様子（工場長談）

普段の常岡さんは真面目な性格で責任感が強く、嫌な仕事も快く引き受けてくれます。工場内では明るく後輩の面倒見もよく慕われています。



常岡氏が勤めている西鉄エム・テック 福岡工場

全国優勝までの道のり

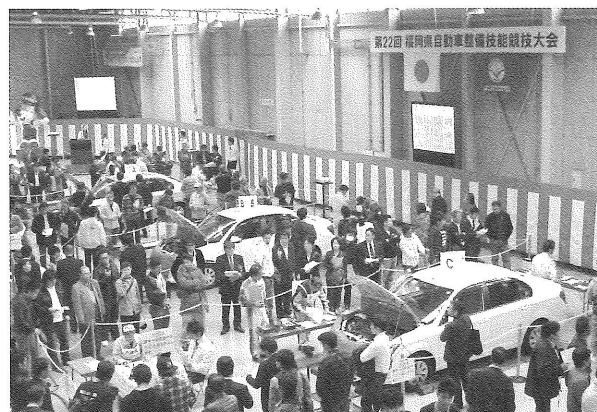
出場までの経緯

両氏が所属する粕屋支部では、常岡さんが勤めている西鉄エム・テック福岡工場から1名と専業工場から1名のチームで、全国大会出場選手の選考を兼ねた「福岡県自動車整備技能競技大会」の選手を選出している。

両氏は、平成24年に開催した「第21回福岡県自動車整備技能競技大会」に粕屋支部チームとしてコンビを組み出場した。そこで、見事優勝を果たし前回大会（第19回全国大会）の福岡県代表選手に選ばれた。

しかし、前回大会では、緊張で思うように力が発揮できず44位と悔しい思いをしたという。

2度目の挑戦となる今大会は、常岡さんが再び福岡県大会（第22回福岡大会）に出場し、

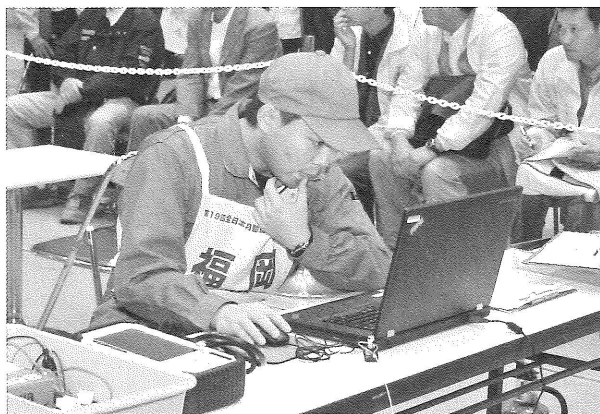


第22回福岡大会の様様

所属する粕屋支部が優勝したが、コンビを組んでいた選手が都合により代表選手を辞退したため、谷口さんと再度コンビを組んで全国大会に再チャレンジすることとなった。

お互いに前回大会の悔しさをバネにリベンジ

するという思いが強かったという。



前大会（第19回）出場時の両氏
緊張で思うように力が発揮できなかった

大会までの道のり

代表選出後、全国大会に向け練習に取り組んだ両氏は、競技車両が決まるまでは、FAINES及び外部診断機の活用訓練と基礎作業を訓練したという。特に前大会でFAINESの活用が不十分であったこともあり、FAINESの見方や診断機の使い方、データモニタから不具合につながる数値の見分け方などを基に、整備マニュアルに沿った点検を徹底的に練習したという。

また、競技車両が決定してからは、同車種のレンタカーを借りて、故障設定を行いアドバイザーや基礎作業の訓練を行い、また、今大会から問診、実車競技、納車説明の一連の競技時間（90分）はチーム内で時間配分を自由に設定してよかったことから、一連の流れをマニュアル化し競技時間に合わせた訓練を行ったという。

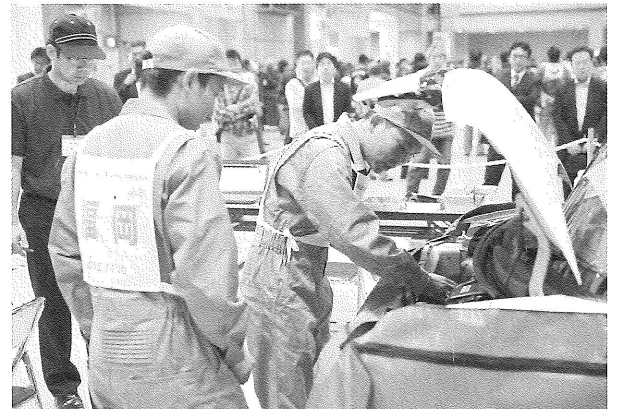
訓練は、主に仕事終わりの夜に行われたが、

支部関係者や振興会職員など多くの方の協力により行なわれ、また、2回目の出場という事で周りからの期待も大きかったが、重圧にも負けず全国大会への気持ちを強めていったという。

また、訓練期間中、両氏共にお子さまが産まれたが、訓練して夜遅くに帰宅する日があっても支えてくれた家族に感謝を述べるとともに、全国大会に送り出してくれた職場の人たちへの感謝の言葉も語られた。

大会当日の様子

大会当日は、2度目の出場とあって前回より落ち着いて競技に臨めたといい、練習してきたことに自信を持って確実に見落としが無いように務め、予定通りに問題をクリアしていき時間内に終わることができたという。



前回に比べ落ち着いて競技に臨めたという

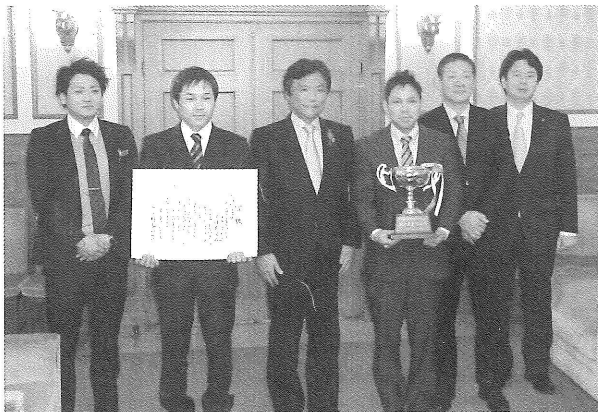
競技終了の合図が鳴り、時間内に予定通り出来たことと、審査員から「よく練習されました

ね」と声をかけられたことから、上位には入賞しているだろうという気持ちがあったという。成績発表では次々と発表される中、2位まで発表されても呼ばれなかったのが優勝発表の際は緊張したという。

地元の反響

地元へ帰り、友人、知人、お客様など多くの方から「おめでとう」と声をかけてもらったという。また、県知事や運輸局長、支局長などへ表敬訪問を行なったほか、業界紙などからの取材も受けたという。

しかし、両氏とも優勝したことに慢心せず、谷口さんは「おめでとうと言われる度に、もっと腕を磨かなくてはと思う。」と話され、常岡さんは「故障探求への考え方、また、ほかの仕事にしても作業時間や効率等をよく考えるようになった。」と話された。



県庁で行なわれた県知事への表敬訪問の様子

今後の活躍に期待

谷口さんの勤務先である(有)藤壺自動車工業代表者の藤壺氏に、谷口さんの今後の活躍についてお伺いしたところ、「今回優勝したことによって福岡県の整備レベルの高さを証明することができ、また、県内や支部の工場様に明るいニュースを届けることが出来て大変うれしく思っています。福岡県全体の優勝です。本人は

本当に勉強が好きでチャレンジ精神が豊富であり、この日本一になったことは通過点に過ぎないので、これから先も整備業界発展の為に活躍して頂きたいと思っています。古い車から新しい車まで整備できる職人整備士と言うかわかりませんが、そのような業界人は全国を探してもそうはいないと思います。本人もまだ30代前半ですので、これからの成長がとても楽しみです。」と話され、今後の活躍に期待した。

また、常岡さんの勤務先である西鉄エム・テック(株)福岡工場工場長の小屋松氏に常岡さんの今後の活躍についてお伺いしたところ、「今後は、自動車検査員、一級整備士等、各種免許取得に向け積極的にトライし、小型車、大型車、特殊車両等いろんな車両に対応が出来る整備士になってほしいと思っています。」と話され、常岡さんの活躍が社内報にも掲載されるなど、常岡さんの今後の活躍に期待した。

最後に、両氏の今後についてお伺いしたところ、谷口氏は「一級自動車整備士の資格を取得したい」と話され、さらなる技能の習得を目指すといい、常岡氏は「日本一になった事で嬉しかったが、同時にたくさんのプレッシャーもあります。そのプレッシャーに負けないように、また車は新しくなっていくので、新しい車にもチャレンジしていけるように頑張ります。」と、日本一になったプレッシャーに負けずに努力を重ねると語られた。



日本一というプレッシャーに負けぬよう今後も技術に磨きをかけると誓う両氏